

「まちづくり効果」の諸相



二井昭佳氏提供

観光客の流れを変えた街路整備

どこにでもある普通の商店街であった夢京橋キャスルロード。商店街を貫く道路の拡幅工事にあって、彦根城大手筋というまちの履歴を踏まえた道路・街並みの整備により賑わいを取り戻した。彦根城を訪れた観光客が通りに流れるという新しい人の動きが生まれている。

道路拡幅にあわせて沿道の商店主などが中心になって定められた街並みのルールは、沿道の銀行にも波及。通り突き当りの建物は(写真下)、街並みルールの適用外の範囲にあるが、街並みづくりの高い意識から自主的に景観配慮を行い、良好な街並み景観に一役買っている。

(彦根市:夢京橋キャスルロード p.61ほか)



夏祭りの復活に結びついた河川空間整備

津和野川の整備では、河川景観の専門家の参画により、河川区域の枠にとらわれず、川沿いに立地する養老館(津和野藩校)庭園との一体化を実現。地域の人たちの癒しの場として、また津和野の新しい観光スポットとして親しまれている。こうした良質な空間の創出によって、衰退していた夏祭りが30年ぶりに復活した。

(津和野町:津和野川ふるさとの川整備 p.73ほか)



津和野町提供



二井昭佳氏提供



まちの履歴を顕在化させた歴史的運河の再生整備

一時は埋め立ての危機にあった堀川運河。運河の整備にあたり景観専門家を含むデザインチームが編成され、市民、行政、専門家が一体となった検討体制（油津地区・都市デザイン会議）を構築してまちづくりの一環としての検討を実施した。

明治期の公文書をもとに、石積護岸の歴史的な価値を再発見し、その保存・再生によって、これからのまちづくりの拠点となる良質な空間が創出されている。

（日南市：油津堀川運河 p. 78 ほか）



日本一の環境学習の場という人々の夢を実現した河川整備

地域の人たちや直方市役所との協働による、10年近くの構想練り上げの情熱によって生み出された河川空間整備。その出発点は「日本一の環境学習の場」という地域の人たちが描いた夢プランだった。景観デザインの専門家の参画により、一般的な河川整備のメニューを超えて、沈下橋の設置や微地形造成など、のびやかで使い勝手の良い水辺空間が生み出されている。

地域防災センターとして河畔に整備された遠賀川水辺館（左上写真）は、地域の自然や歴史を学ぶ環境学習の拠点となり、様々な地域活動のグループが生まれている。

（直方市：遠賀川直方の水辺 p. 70 ほか）